

- 1 **くがにくとぅば[黄金言葉] vol.221**  
**社長というものは組織の上にいるものではなく、組織の外にいる**  
学校法人 みのり学園 理事長 川満 匡
- 5 **地域リレーションシップ情報 214**  
**沖縄総合事務局経済産業部の最近の取組について**  
**証明用電気計器(子メーター)の有効期限は過ぎていませんか?**
- 8 **おきぎんマーケティングレポート**  
**第88回おきぎん企業動向調査**  
**(2022年4～6月期) 調査結果**  
～県内(地域・業種別)の経営環境と業況感～
- 16 **けいざい風水**
- 18 **おきぎんカトレアクラブ通信**
- 20 **県内景況・確報**  
2022年5月の県内景況
- 28 **国内景気動向**
- 30 **沖縄マーケティング情報**  
①沖縄県内の事業所数・従業者数・人口・世帯数  
②世界の中の沖縄(年次)  
③グラフでみる沖縄経済  
④数値でみる沖縄県・全国の経済動向(月次)
- 50 **経済社会のできごと** (沖縄、国内・海外)  
2022年6月



表紙写真/ハイビスカス

## 社長というものは組織の上にいるものではなく、組織の外にいる



学校法人 みのり学園

琉球調理師専修学校  
みのり幼稚園

学校法人 みのり学園  
理事長 川満 匡



今回は、浦添市内で「みのり幼稚園」、「琉球調理師専修学校」を経営する学校法人 みのり学園の川満 匡理事長に、今年で就任19年目を迎えるこれまでの様々な取り組みや、校舎の移転を来年度に控えた今後の展望などについてお話を伺ってまいりました。

### 経営再建のためみのり学園へ

私はずっと教育関連の業界で働いていたわけではなく、元々は建築業の人間です。このみのり学園に理事長として就任してから教育に深く関わるようになり今に至ります。学校法人みのり学園も設立当初から今の形だったわけではなく、1956年に『沖縄無線技術専門学校』として開校したのが始まりです。そこから、時代の流れで様々な変化を経て今のような幼稚園・保育園と調理師専門学校という形態になりました。私がこの学校の理事長に就任した当時は、実はみのり学園は経営状況の悪化から金融機関による競売手続きが行われているという状況でした。そのような状況で私は当時の理事の方から、新しい理事長を探してほしいと頼まれたのがこの学校に関わるきっかけでした。



そこから1年間ぐらい新しい理事長を探したのですが、経営状況が思わしくないこともあり、ついに新しい理事長を見つけることが出来ず、

最終的には私が引き受けざるを得なかったというのが就任の経緯です。

### みのり学園を改革

今年が理事長就任から19年目であり、今では事業を軌道に乗せて学校の経営を継続できています。しかし、就任して当初は、前経営陣による経営から立て直しを図るために眠れない日が何年も続いたくらい大変な日々でした。

当時特に取り組まなくてはいけないと思ったことは職員たちの意識改革でした。当時のみのり学園の職員は、自分の教育方針の正しさに基づいた指導を行うことにばかり目が向いているように感じました。職員にそれぞれの考え方があることは良いことですが、それだけが続けた結果、入園数が年々右肩下がり、苦しい経営状況だったわけです。最終的に園を選ぶのは保護者であり、地域や保護者の意見に耳を傾けなければならないのです。職員が思う教育方針ではなく、保護者の意見を聞いて、それに対する努力をしなければいけません。保護者は子供をどのような園に入れたいのか、子供をみのりに入れて満足しているのか。そういう風に考え方を換えようと、勉強会などもたくさん行い、職員の意識改革をしました。

今、子供たちが遊んでいる園庭や「みのり菜

園」という西原でやっている畑も当時職員の大反対にあいながらも当時の社会や保護者の要望を汲み取ったうえで作ったものです。バスのデザインを今のような仮装バスにしたのも、子供たちに、この園に入りたいと思ってもらうためです。理事長をはじめとする職員は、園児や保護者の満足度を意識して取り組む必要があります。



### 社長は組織の外にいる

これらのように、理事長就任以降入園数を増やすための様々な取り組みを行ってきました。これは私の考えですが、学校の理事長や会社における社長というのは組織の上にいるのではなく、組織の外にいるものだと思っています。組織の内にしか目を向けずにいると、この組織が社会に合っているのかが分からなくなってしまいます。なので、理事長というものは、外に立って自分の組織、社会、園児・学生、保護者を見て方針決定をしていく必要があるのです。

職員に求めていることは、園児（学生）一人一人を見て欲しいということです。集団としてみるのではなく一人一人に寄り添ってあげて欲しいということは常々言っています。もう一つは、広い視野で保護者や社会にも興味を持って付き合ってもらいたいということです。保護者の皆様も一生懸命子育てをしていますし、一生懸命働いています。社会では自分だけが頑張っているわけではなくて、皆頑張っています。そこを理解して、普段どういう仕事をしているの

かなどに興味を持って、社会全体に目を広げて付き合っていないと本当の意味で寄り添うということはできないと思っています。

### 幼稚園・保育園と専門学校が一体となって学びの場を提供

幼稚園・保育園では①心も体も元気な子、②なかよく遊ぶ子、③よく考え工夫する子の3つを大きな教育目標として子供たちが様々な体験を得られるよう取り組んでいます。英語教育に力を入れたり、調理師学校も同じ敷地内にありますから、食育にも力を入れています。園児が西原の菜園で野菜を育て、専門学校の学生がそれを調理し、振る舞うという取り組みもしています。このように幼稚園・保育園と専門学校が一体となって学びの場とすることが出来るのは本校ならではの長所だと思います。学校行事も、園児たちと学生たちが一緒になって行っています。

### 『“つ”が付くまでの教育』が重要

当園では、様々な勉強なども行っていますが、幼稚園・保育園の年代の子たちにはなにより人間作りということを重要に考えています。私が昔教わったのは、『“つ”が付くまでの教育』ということで、子供が1～9歳までの間に受ける教育は非常に重要だということです。人間は幼いころの環境でいくらでも変わります。そして、環境作りをするのは大人の仕事ですから、小学生になってからでいい、ではなくこの年代から可能性を信じて様々な体験を与えることが大切だと思っています。



### Wライセンスにも対応

琉球調理師専修学校（※2023年4月より琉球調理製菓専門学校へ校名変更予定）では、調理専門士科、調理師科、製菓製パン専門士科の3

つのコースを設けています。調理師科と製菓製パン専門士の2つを学ぶWライセンスにも対応しています。

調理に関しては、数多くの資格を取得できることはもちろん、県内の有名ホテルやレストランなどからトップクラスの料理人を招いて指導に当たってもらっています。このような取り組みは学生の技術向上だけでなく、そこで生まれた繋がりがその先の就職にも繋がっていきます。



また、最近の朝ドラなどでも琉球料理が話題になっていますが、調理師専門学校の理事長として地域の食文化の継承も非常に大切なことだと考えています。沖縄では昔から地域のものを食べてきた歴史があり、長寿県として平均寿命も少し前まではずっとトップでした。平均寿命にはもちろん食以外の要因も様々ありますが、長寿県を取り戻すという意味でも伝統的な食文化の継承は重要だと考えています。本校では、伝統的な琉球料理や琉球菓子についても学ぶことが出来ます。



### 街の発展とともに発展

本校は浦添市浦西地区への移転を予定しています。調理師専門学校は来年度から、幼稚園・保育園は再来年度から移転します。校舎も新し

くなり、何より広さが現在の2倍ほどの敷地になります。これまで1,000坪ほどだった敷地面積が移転後には約2,000坪になります。定員を増やすこともでき、広々としており幼稚園・保育園の園児が遊ぶスペースも広がりますし、専門学校の設備を充実させることもできます。学ぶには最適な環境だと思います。また、浦西地区はモノレール駅近くであり、高速道路のICが開通予定など交通の便が非常に良い地域となっており学生の通いやすさや保護者の送り迎えのしやすさなども良くなります。

浦西地区は今後大型の商業施設の建築が予定されたりと、増々街づくりが進められていく地区ですので、街の発展とともにみのり学園も発展していければと考えています。



### 「人を愛し愛され、尽くし尽くされ人生を歩め」

「人を愛し愛され、尽くし尽くされ人生を歩め」。この言葉は私が25～6歳の時に建築業の先輩に言われた言葉なのですが、今でもずっと心に残っています。愛されたから愛する、尽くされたから尽くすという順番ではないということです。愛し、尽くしたからといって必ずそれが自分に返ってくるというわけではないですが、そういう人生を歩みたいということです。

私にこの言葉を言ってくれた先輩もこの言葉通りの生き方をしていた方でした。一生懸命頑張るから、周りに認められて、信頼されて、新たな仕事が増えて、繋がりが広がっていくという彼の姿を見て非常に感動したことを覚えています。私も彼の思いを引き継いで、言葉通りにやっていかないといけないと日々感じています。

厚生労働大臣指定

学校法人 みのり学園

# 琉球調理製菓 専門学校

- 調理専門士科 2年
- 調理師科 1年
- 製菓製パン専門士科 2年

2023年4月  
琉球調理師専修学校より  
校名変更予定

てだこ浦西駅 近く!

2023年4月 校名変更並びに校舎移転予定!



琉球調理製菓専門学校としてさらに発展します!



学校法人 みのり学園  
**琉球調理製菓専門学校**  
 ※2023年4月 琉球調理師専修学校より校名変更予定



## 交通渋滞と沖縄自動車道

観光地としての交通体系へ

沖縄本島では陸上交通の多くを自動車に依存しており、著しい交通渋滞が発生しています。特に国道58号線における道路混雑時の旅行速度は三大都市圏（東京23区、大阪市、名古屋市）と同等の低い水準にあります。このような一般道の混雑緩和のため、沖縄自動車道ではさまざまな整備事業が行われています。

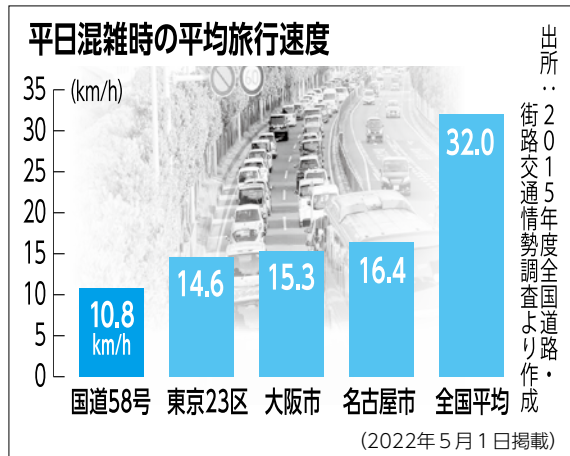
沖縄自動車道は沖縄振興開発計画に基づき、本島中南部都市圏と北部の名護市とを結ぶ自動車専用道路として計画され、1975年に名護市からうるま市までの北部区間25.9キロが一般有料道路として開通しました。うるま市から那覇市までの南伸道31.4キロは高速自動車道として87年に供用開始、併せて北部区間が高速自動車国道に編入されました。

2000年には沖縄自動車道と那覇空港を結ぶ那覇空港自動車道が開通し、現在は南風原町を起点とし南城市知念までの高規格道路である南部東道路の整備（南城大城IC⇄南城佐敷・玉城ICは開通済）が進められています。

一般道の混雑緩和と利用促進のため、沖縄自動車道は料金割引措置（全線35.5%割引）が23年3月末まで適用されています。また、西原町幸地で進められている幸地インターチェンジ（仮称）整備事業により、さらに利便性が向上される予定です。

沖縄県が策定した新広域道路交通ビジョンでは世界水準の観光リゾート地にふさわしい魅力的な交通基盤を実現し、渋滞がなく全ての人に優しいつなぎ目のない、シームレスな交通体系を目指しています。

（沖縄銀行 美里支店長 青木 淳）



## 沖縄初の8車線道路

利便性向上や事故減少期待

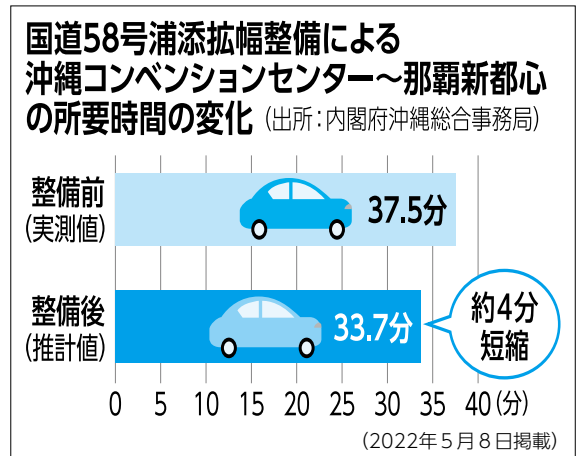
皆さまは沖縄初の「8車線道路」を利用されたでしょうか？それは本年3月27日に通行が可能となった浦添市城間から勢理客までの国道58号線浦添区間のことで、約3キロの8車線道路を通行するドライバーは新たな感覚を覚えることでしょう。

実はこの道路、宜野湾市宇地泊から浦添市西洲までの西海岸道路と合わせると合計12車線となり、都市間のアクセス向上による経済効果、交通渋滞緩和による通勤・通学の利便性向上、渋滞を原因とした交通事故の減少が期待されています。

浦添市は県都である那覇市のベッドタウンであり、人口は那覇市、沖縄市、うるま市に次いで多く、事業所数も那覇市と浦添市で沖縄県の約4割を占め、県経済を牽引（けんいん）する重要な地域です。そのような浦添市ですが、「混雑時平均旅行速度」と言われる指標は、大都市圏並みの遅さとなっています。ノロノロ運転によるイライラや沖縄観光へのイメージ低下、それに伴う経済損失が懸念されていることから、「8車線」への期待は大きいでしょう。

沖縄総合事務局によると、「8車線道路」になることで那覇新都心と沖縄コンベンションセンター（宜野湾市）の間の移動時間は33.7分になり、従来の片側3車線（37.5分）から4分程度の短縮が見込まれるとのこと。「たった4分？」と思われる方もいるかと思いますが、救急車の到着が4分早まる、消火活動が4分早く始められるなど「たった4分」で助かる命があると思うと、「8車線道路」の役割は多岐にわたると思いませんか？

（沖縄銀行 城間支店長 赤嶺 正明）



## 日本復帰50年 沖縄の観光 県経済をけん引、発展期待

今日は、沖縄県が日本復帰を果たしてからちょうど50年という節目の日です。沖縄県では復帰以降5次にわたる振興計画によりさまざまな振興策を推進した結果、経済的な発展を遂げてきました。その中でも観光産業は、沖縄のリーディング産業として県経済を特にけん引してきました。しかし、半世紀を経て新たな課題も見えてきました。

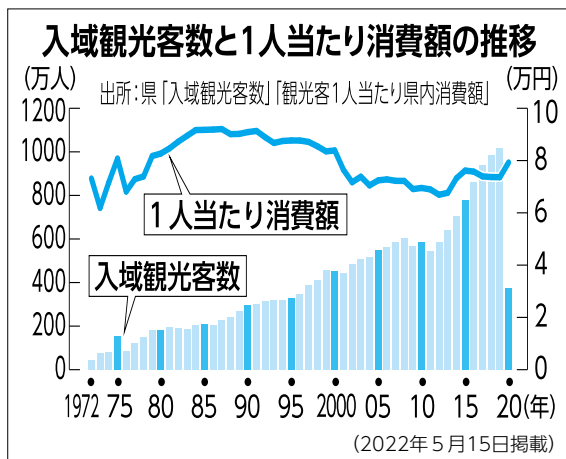
日本復帰以降、沖縄県では1975年の海洋博をはじめとするさまざまな取り組みやプロモーション、宿泊施設・道路等のインフラ整備を行い、観光客の誘致を進めてきました。その結果、観光地としての魅力が広く認知され、入域観光客数は年々増加、近年のインバウンド急増の後押しもあり、2019年の年間入域観光客数はついに1,000万人を突破しました。

一方で、沖縄観光において旅行者の平均消費額や平均滞在日数が海外の有名観光地と比べて少ないことや、インバウンドに配慮した多言語対応の問題なども今後さらなる発展を遂げるための課題として挙げられます。

近年は、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、インバウンド（訪日外国人客）は皆減、国内観光客も大幅に減少してしまいました。しかし、昨年12月から今年3月までの月ごとの入域観光客数は4カ月連続で前年同月を上回っており着実な回復の動きが見られます。

復帰50年の節目の年にコロナ禍の苦しい状況を脱し、既存の課題を徐々に解決することで、沖縄県がさらに魅力あふれる観光地として発展することに期待したいです。

（おきぎん経済研究所 研究員 小嶺 貴史）



## 豊見城市 市制施行20周年 人口増、経済発展 目覚ましく

豊見城市は2022年4月に市制施行20周年を迎えました。

豊見城村から市へと移行して以来、目覚ましい発展を遂げています。人口推移では、近郊の那覇市を中心とした都市圏域の拡大により豊見城市にも各地で住宅団地の建設や宅地開発が進み、人口が大幅に増加しました。県統計課の発表によれば市人口は02年の5万1,480人が20年には6万2,612人となり、市制当初の約1.25倍に増加しています。県全体の増加率が同年比で1.09倍であったことに比べ、顕著に増加しています。

また経済面において、市内幹線道路の整備や豊崎地区などの大型開発、瀬長島の再開発など積極的な都市開発による企業誘致が進み、経済発展も目覚ましいものがあります。

経済活動別市町村内総生産（実数）は、02年当時に約929億円だった総生産額が、18年には約1,540億円と約1.65倍の急成長を遂げています。産業別構成比で見るとサービス業を中心とした第3次産業の構成比が当初の77%から82%まで増加しております。

これは、先の都市開発に加え、豊見城市の立地が空港や高速道路インターチェンジにも近いことで、県全体の観光需要増加に伴い観光関連サービスや物流・運輸などが増加したものとされます。

このように著しい発展を遂げている豊見城市は、今後も市の政策展開の基軸である「子どもを産み育てやすいまち」「誰もが安心して暮せるまち」「地の利を活かして持続的に発展するまち」を軸に、さらなる発展が期待できます。

（沖縄銀行 豊見城支店長 新本 宗輝）

